

業績紹介

建築は“関係”をつくるメディアであり、ディテールは“関係”をより深くする。

宇佐美喜一郎／OFA (Office For Architects)

建築は“関係”をつくるメディアであり、ディテールは“関係”をより深くする。

建築とは、単に空間をかたちづくる営みにとどまらない。むしろ、そこに生まれるのは——人と人、人と環境／場所、そして人と社会／コミュニティのあいだに生起する「関係性」である。私は、建築をそうした関係を媒介し、編み直す装置ととらえる。

建築を「メディア」と呼ぶとき、それはテレビや雑誌のような情報媒体を指すのではない。「メディア(media)」とは、本来「媒介するもの」「あいだに立つもの」を意味する(medium)から派生した言葉である。すなわち、建築とは関係を立ち上げる「媒介＝メディア」なのである。

たとえば、都市公園に開かれた窓は、生活空間と自然をつなぎ、関係をつくる。土や木の自然素材や身体スケールに呼応した空間のプロポーションは、人間と自然の関係を再認識させる。そして、空間の余白や抽象性は、使い手の行為と相まることで、空間の様相が移ろい、意味は変化する。一つひとつの設計と企ては、関係性をより醸成する作業である。

私はこれまで、「SAhouse/小金井の家」で周辺環境・自然と人の距離を設計し、「Banly school/ベトナムの少数民族の村の学校」で伝統的な民族と構法の翻訳者となり、「スペースオー」では、空間と活動、情報発信、コミュニティを複層的につなげてきた。それらは、持続的に使われることで各々のコミュニティを醸成し続ける「メディア」として存在している。

現代において、建築家の役割は空間を“設計”することだけではなく、空間を通じて「ひらかれた世界の関係性を設計すること」だと思う。だから私は、建築家を「かたちの設計者」ではなく、「関係の編集者／媒介者」として再定義したい。

建築は完成した瞬間ではなく、関係が始まったときに立ち上がる。それが、私の考える「建築は、“関係”をつくるメディアである」という言葉の意味であり、その“関係”は、設計と企画、運営のディテールの追及と、自らが施工や生産に参加することにより深まると私は信じている。

私はこれらの営みを通して、「ひらかれた関係性の地図」を描いていきたい。



① 東京都北区で生まれ育つ。故郷を離れる。東京の再認識をしながら、建築を学ぶ。

1987年 東京都北区に生まれる
2009年- 実家の工務店(施工管理業務)勤務
2010年 実家の工務店倒産
2011年- 東京理科大学(坂牛研究室)で建築を学ぶ 3.11東日本大震災
2014年 卒業設計で実家のある東京都北区のアパートの改修設計

⑤ 東京で建築を設計する。

2019年 ノイズアーキテツツ勤務(豊田啓介の元で万博招致計画のアシスタントに従事)
2020年-21年 日建設計 東京五輪

⑦ 東京でメディアとしての建築を編集し、“関係”をつくる。

2020年 HOPSCOTCH運営
2022年 フリーランス開始、OFA開業。二級建築士事務所登録。
2023年 建築と経営のあいだ研究所パートナー
2024年 武蔵野美術大学 建築学科研究室 助手

⑥ 海外で建築を設計する。

2019年-20年 1+1>2建築事務所(ハノイ、ベトナム)
コロナ・世界的なパンデミック

③ 海外で建築を深める。

2017年 ダナン科学技術大学建築学科(ベトナム)特別招待研究員
2017年 VoTrongNghia Architects(ホーチミン、ベトナム)でインターン

② 地方で建築を深める。

2014年 宇都宮大学大学院へ
ザハ・ハディット急逝
即、ザハの建築を親に渡航

④ 地方でメディアとしての建築に気づく。

2018年 宇都宮大学大学院修了(安森研究室)

ホーチミン

都市

地方

ハノイ

ダナン

東京

都市

地方

宇都宮

SPACEO (スペースオー) は私の実家の元家電販売店の空きスペースをリノベーションしたスペースです。現在、私の個人事務所として運営しつつ、レンタルスタジオ、建築・アートに関するイベントスペースとしても営業しています。この建物のリノベーションをテーマとして卒業設計で取り組み、その後も継続しています。(2021年5月運営開始)



日常を残し、透明性のある空間を表出させる

卒業設計以前、坂牛研究室の先輩らが取り組んだアルゼンチンでの「アルファ・スペース」のワークショップ※報告を聞いたとき、プライベート空間に外部の活動を招き入れる「関係性の挿入」というコンセプトに衝撃を受けた。趣味や学びの場として、住人以外の人が立ち入れるパブリックな余白。その空間は段差やガラスによって視覚的・身体的に「距離」を生みながらも、透明な扉の向こうに開かれていた。建築が媒介する関係のあり方を、具体的に感じ取った原体験だった。

※アルゼンチンで行われた理科大坂牛研による国際WS



躯体を現し、外界と連続的に魅せる

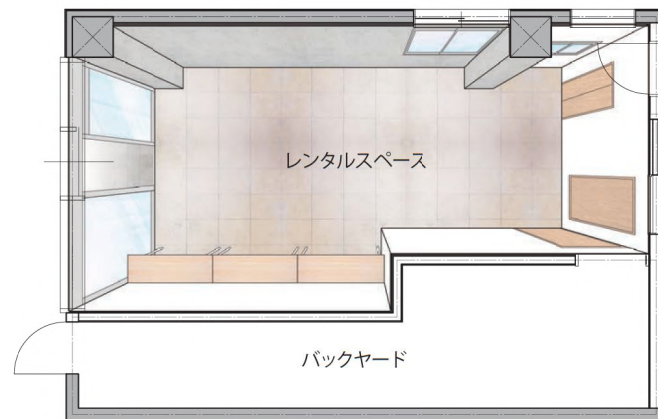
既存空間の整理と解体を経て立ち現れた躯体。その美しさに惹かれ、「躯体の空」と名付けた建築は、構造そのものをむき出しにすることで、建築と世界との関係性を純化しようと試みた。パンデミックが始まった混乱の時期、柱や梁が支える空間に安定を見出し、見る者の感覚に“強さ”や“希望”といった新たな感情の回路を開く。構造＝関係の骨格として捉え直した瞬間だった。



光と白が紡ぐインテリア

施工のプロセスで、壁の白塗装や照明設置を自身の手で行った体験は、物質と身体の関係を変えた。最大限のサイズのダクトレールと露出された躯体のコンビネーションは、東南アジアの建築のような“開かれた関係性”を空間を意図した。照明の点灯とともに浮かび上がったのは、白い壁と天井、既存のガラスが生む多層的なレイヤー。そこにあったのは“白”という色の中に潜む、見えない関係性のネットワークだった。

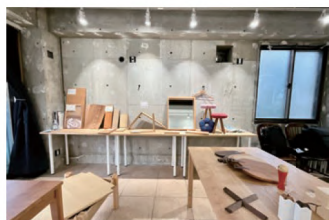
レンタルスタジオ



平面パース

スペースオーは自宅から幹線道路で4km程度、自転車15分の距離に位置しています。個人事務所としての運用に加え、スペースの利用リクエストがあればレンタルスタジオとして開放しています。当初の想定として、趣味や映画鑑賞等の集会、個人の勉強の利用が多いと想定していましたが、意外に商材写真や動画配信の撮影の利用を多くいただいて、コンクリートや白い壁に対する関心が寄せられています。

ついで、展示・販売が多く、個人の活動・発表の場は不足していると実感します。



POPUP商店(家具のショールーム化)



撮影



趣味(弦楽器カルテットのリハーサル)



展示・販売

HOPSCOTCH(ホップスコッチ)



パンデミックを機に始めたオンラインによる建築の議論の場

パンデミックが流行し緊急事態宣言が発出した2022年、学生時代からの友人らと建築の専門領域の内外について議論する活動をオンラインで始めた。(全12回)

ホップスコッチは、英語で「けんけんぱ」という意味です。「地面に描かれた線によって遊びが生まれ、その線をもとに、描いた人以外の人も遊びを生み出すことができる。」という意味を込めて名付けました。多様な職種、多様な議論のプラットフォームとなることを目指し、時に真剣に、時に遊びながら、いろいろな方と社会や都市、建築について共に考えていきたいです。海外で活躍する建築家の話を伺う企画も行いました。(共同運営:田中裕大、山下真一郎)



タイトル	内容
#1 コロナ以後の都市と建築	建築や都市のデザインに携わる全国各地の建築家に、コロナ禍での各地域や事業の状況や日頃の業務の状況について伺い、これからの建築・都市において変わること変わらないことなどを議論しています。
#2 コロナ以後の都市と建築	
#3 動産と不動産	コロナによって不動産・動産がどう変わるのか、日本に未来にとって不動産と動産はどうあるべきなのかを議論しています。
#4 オンラインオープンハウス	HOPSCOTCHメンバーの田中裕大氏が設計した住宅のオンラインオープンハウスを開催し、設計者でありユーザーでもある田中氏の話を伺います。
#5 デジとファブ	家具職人の田中良典さんとBIMコンサルタントの宮石悠平さんをお迎えしています。デジタルとファブリケーションの可能性などについて。
#6 企業と公共性	「企業と公共性」というテーマで西倉美祝さんをお招きし、活動の紹介して頂きます。
#7 サインとグラフィック	GK Graphicsの渡邊研さん、グラフィックデザイナーの泉美菜子さんをお招きし、サインとグラフィックの違いや、これからのあり方について議論しています。
#8 ベトナム/ノイで活動する建築家・竹森紘臣	竹森紘臣さんの活動やベトナム建築について、お話を頂き、日本との違いや共通点、ベトナムで建築することの可能性などについて議論しています。
#9 メキシコ×日本で活動する建築家・皆川拓	メキシコ × 日本で活動する建築家・皆川拓さんをお招きし、バラガン・メキシコ現代建築研究、そして実践について伺います。
#10 フィリピン×日本で活動する建築家・大野宏	フィリピン × 日本で活動する建築家・大野宏さんをお招きし、活動について伺います。
#11 構造	「力学・構造を仕事にする」というテーマで、村田龍馬設計所的小坂さんと山田恵明構造設計事務所の赤坂さんをお招きし、活動の紹介して頂きます。
#12 メディア	「建築を編集する」を仕事にする。というテーマで、吉田和弘さんと矢野伸輔さんをお招きし、活動の紹介して頂きます。

オフライン勉強会

建築経営勉強会

独立や起業を目指す建築士に向けた経営勉強会

創造系不動産が運営する「建築と経営のあいだ研究所」(あいだけん)のコンテンツである「建築設計事務所経営論」をベースに、私と同世代の若い建築士等に向けた設計事務所の経営に関する学習を開始するきっかけとなる会を目的に運営しています。ST3同様に、独立前の建築家と建築設計業に関する経営、お金やキャリア、組織についてはなす場を意図しています。(創造系不動産より業務委託を受け開催)(写真瀬下友貴)



D-1 戦略
設計事務所の
ネーミング

E-1 人と組織
事務所経営
における人と組織

©創造系不動産

ST3 スタッフスタディスタジオ

建築設計事務所のスタッフによるクローズドな集会

ST3(スタッフスタディスタジオ)は、独立前の建築家を対象とした完全対面×クローズのプロジェクトレビューの場です。普段、建築設計事務所に所属したり独立を目指している人が取り組まれている活動やプロジェクトを参加者内で共有し、批評や意見交換をすることで新しい発見が生まれたり、設計者のネットワーク形成を意図しています。(共同運営:國清尚之、川原聡史)



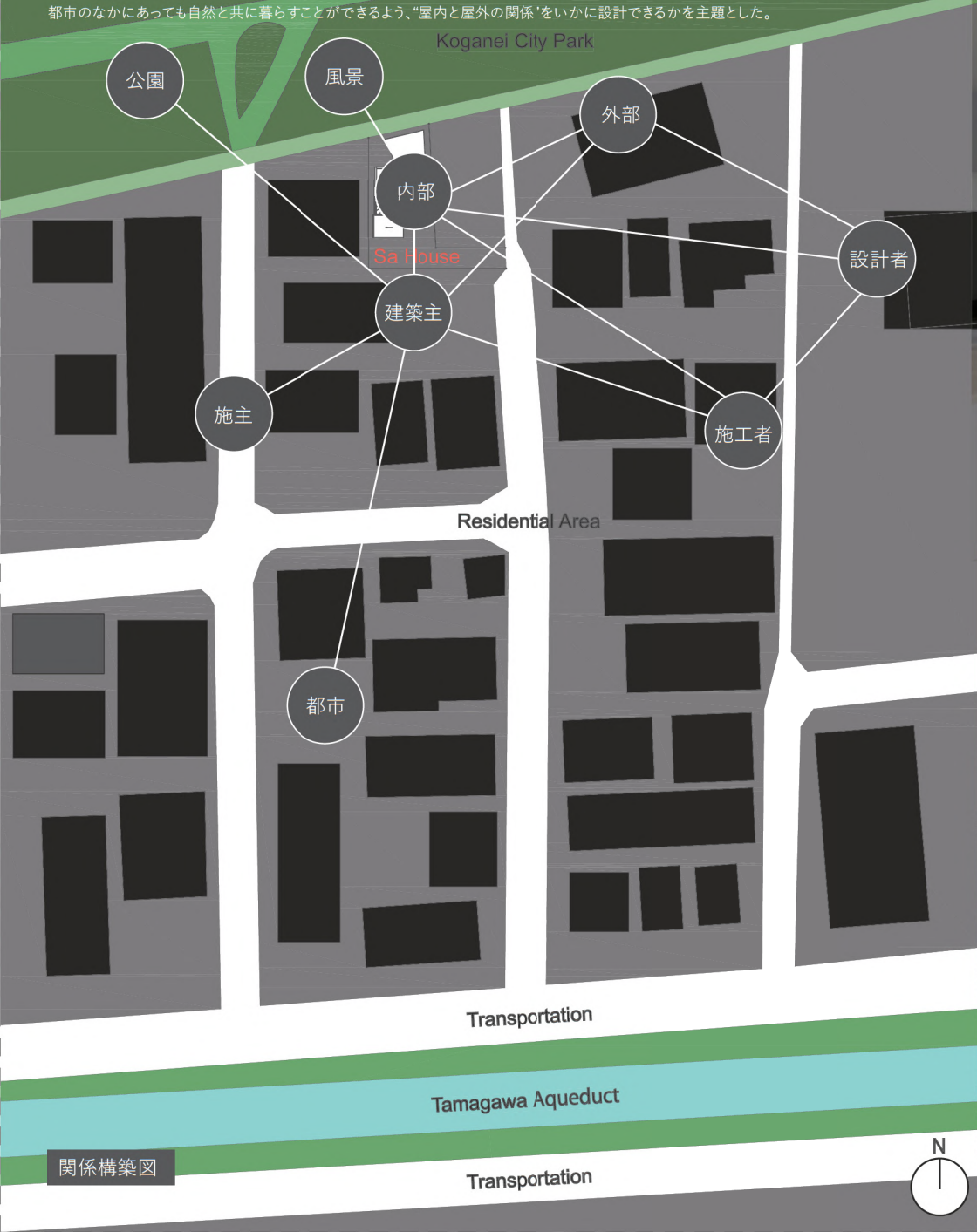
第1回ゲスト土井亘氏(ドットアーキテツ)



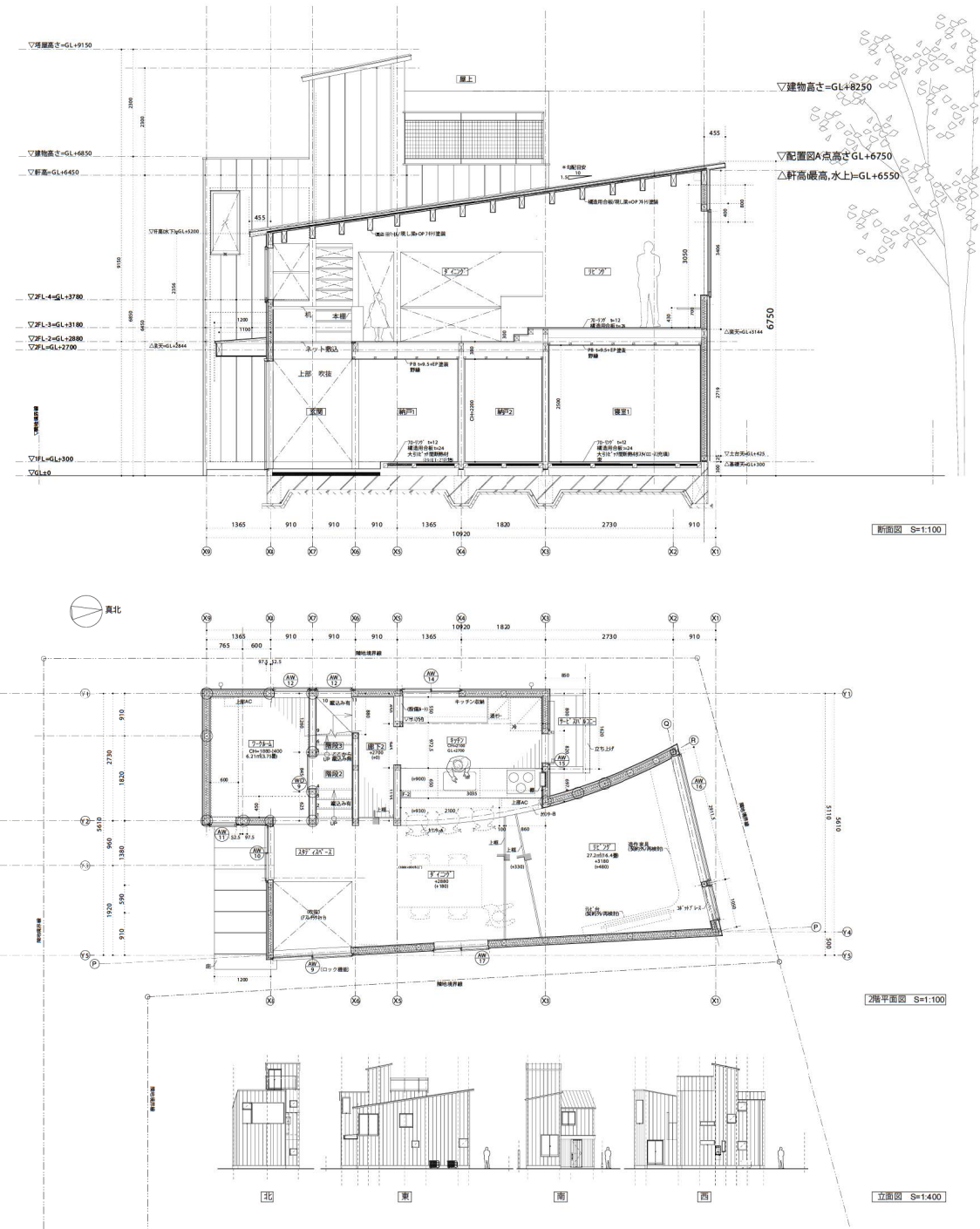
SA house/ 小金井の家

風景と暮らしをつなぐ住宅
ヒューマンスケールで編む、内と外の関係性

「SA house/ 小金井の家」は、東京都、小金井市の都市公園に隣接する敷地に建つ、夫婦と双子の姉妹のための個人住宅(木造2階建)である。都市のなかにも自然と共に暮らすことができるよう、“屋内と屋外の関係”をいかに設計できるかを主題とした。



内部と外部が連続する透明性のある空間



身体スケールと
距離の設計
住まいの対話性

この住宅では、曲面壁や低めに抑えた天井、照明の位置に至るまで、人の身体感覚と空間、自然をはじめとする有機物が、それぞれ独立し立ちあらわれながら、

住まい手との対話を通じて調整した細部は、生活に寄り添う「柔らかな輪郭」を持つ空間を形づくっている。

ここにおける“ディテール”とは、美しさの追求だけではなく、人と空間と自然が関係し合うための調整点である。

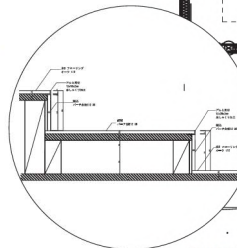
現代住宅のデザイン
のためのコスト調整と
関係性を深める
家具の設らいとフロア

施主とのやりとりのなかでは、予算や法的条件により当初案の変更が多くあった。

例えば屋上のフラットルーフを勾配屋根へ変更、トップライト、施主の意向であった鉄骨階段を木階段にすることでコストを抑えた。

さらに、全体的に建具や床材、見切等を簡素やローコストな素材とし、当初、予算的に困難とされた関係性を深める窓辺にある座面とテレビ台を意図する造作家具、吹抜に机と本棚を設けている。

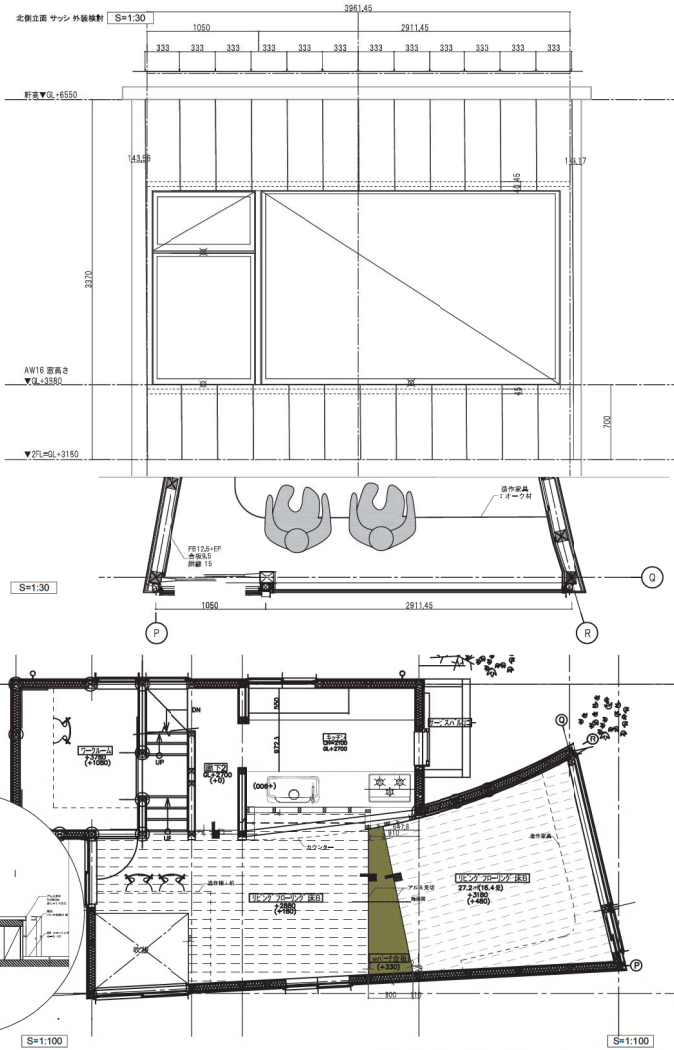
さらに照明はできる
だけ視界に現れない
ような配置とし、各室
に「場の性格」が立ち
上がるよう意図してい
る。



建築は、日常をより豊かに、
非日常の風景を
可視化した静かな
「メディア」

「SA house / 小金井の家」は、外部への光の入り方、手触り、視線の抜け方といった「日常の中の揺らぎ」を通じて、建築が「風景と暮らし」「人と自然」の静かな関係性のメディアとなることを目指した。

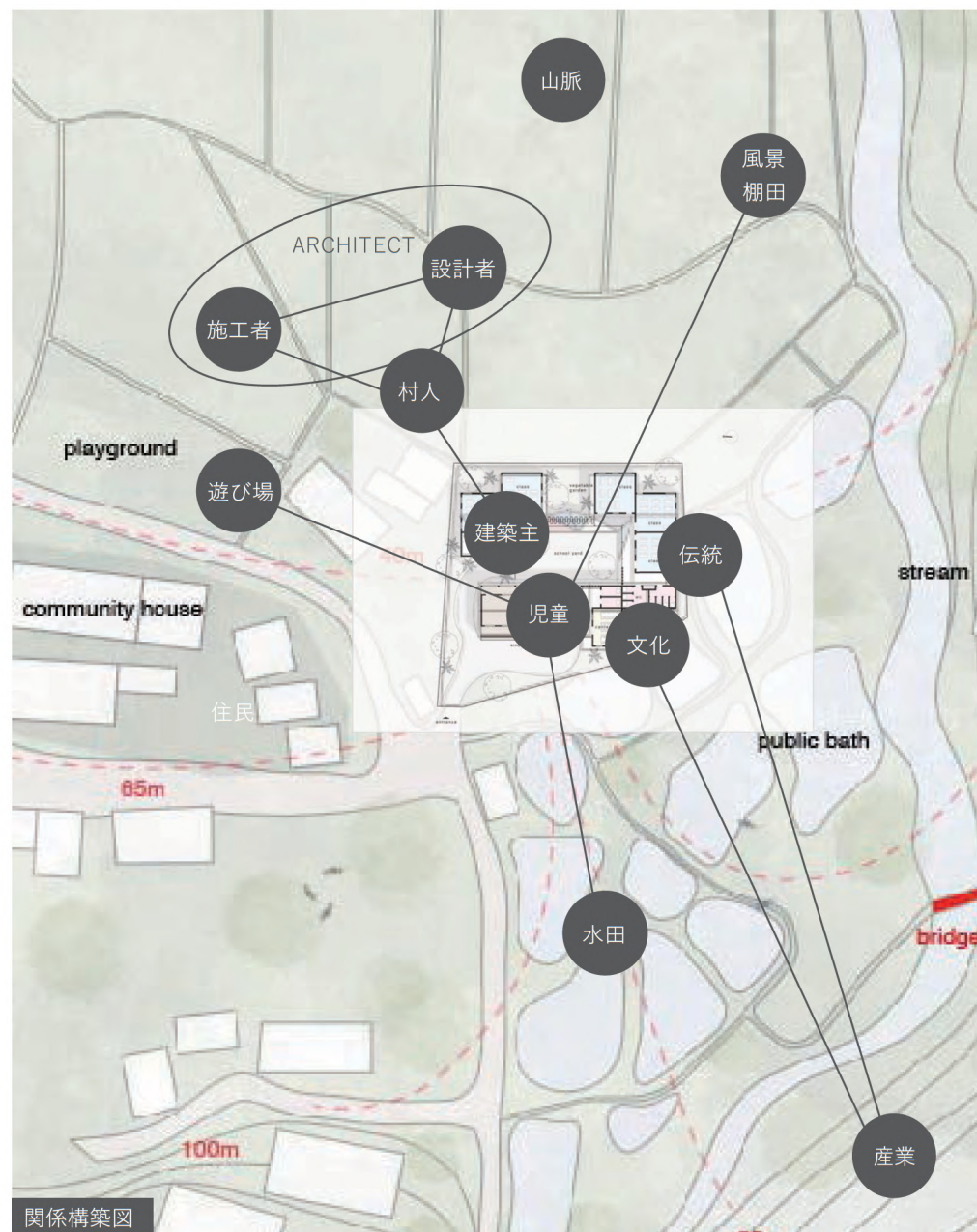
照明計画においても、色温度やルーメンを細かく調整することで、各室に「場としての性格」が立ち上がるよう意図している。これらはすべて、住まい手との関係性の中で生まれた空間である。



(写真: 宇佐美喜一郎)

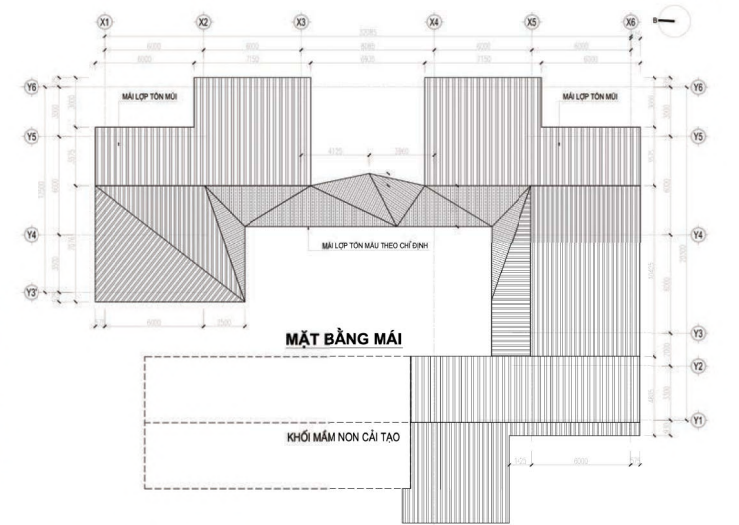
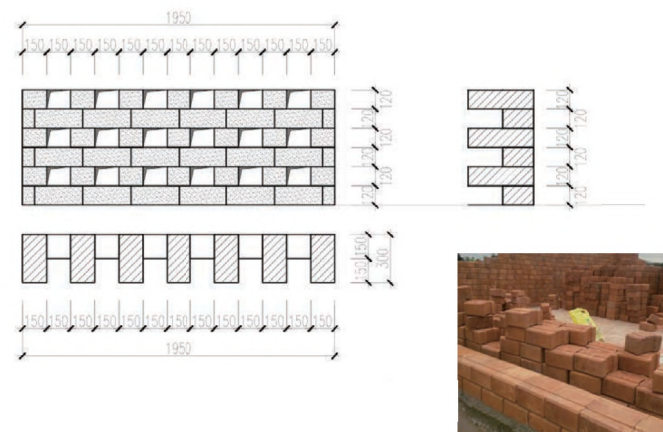
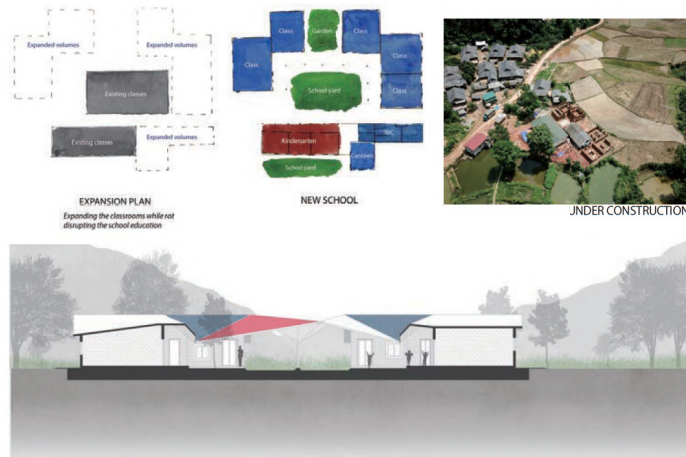


BANLY SCHOOL(バンリースクール)は、ベトナム北部ソラー省にある、雄大な山脈や川、緑豊かな田んぼがあるコモン盆地に村を持つ少数民族の子供たちの学校の再建プロジェクトである。地域資源や文化、歴史を必死に理解し、設計を通じて、これらの関係性を豊かにする、愛される建築を目指した。(1+1>2勤務時、基本・実施設計担当)





(写真: Son Vu)



地域資源を活用した愛される建築

この建築の最大の特徴は、主要構造部の基礎や壁は基礎の根切工事で算出された敷地の土を使用し、建築家の指揮のもと地元の民族の村人が連結して建設されていることである。多彩な色使いの屋根や建具は建築家の世界に対する多様性を尊重する態度を示している。愛される建築 (HAPPY ARCHITECTURE) の実現は、建築家の統率による地域資源 (人・物・自然) の関係性の設計により生まれるとこのプロジェクトを通じて学んだ。

煉瓦のディテール

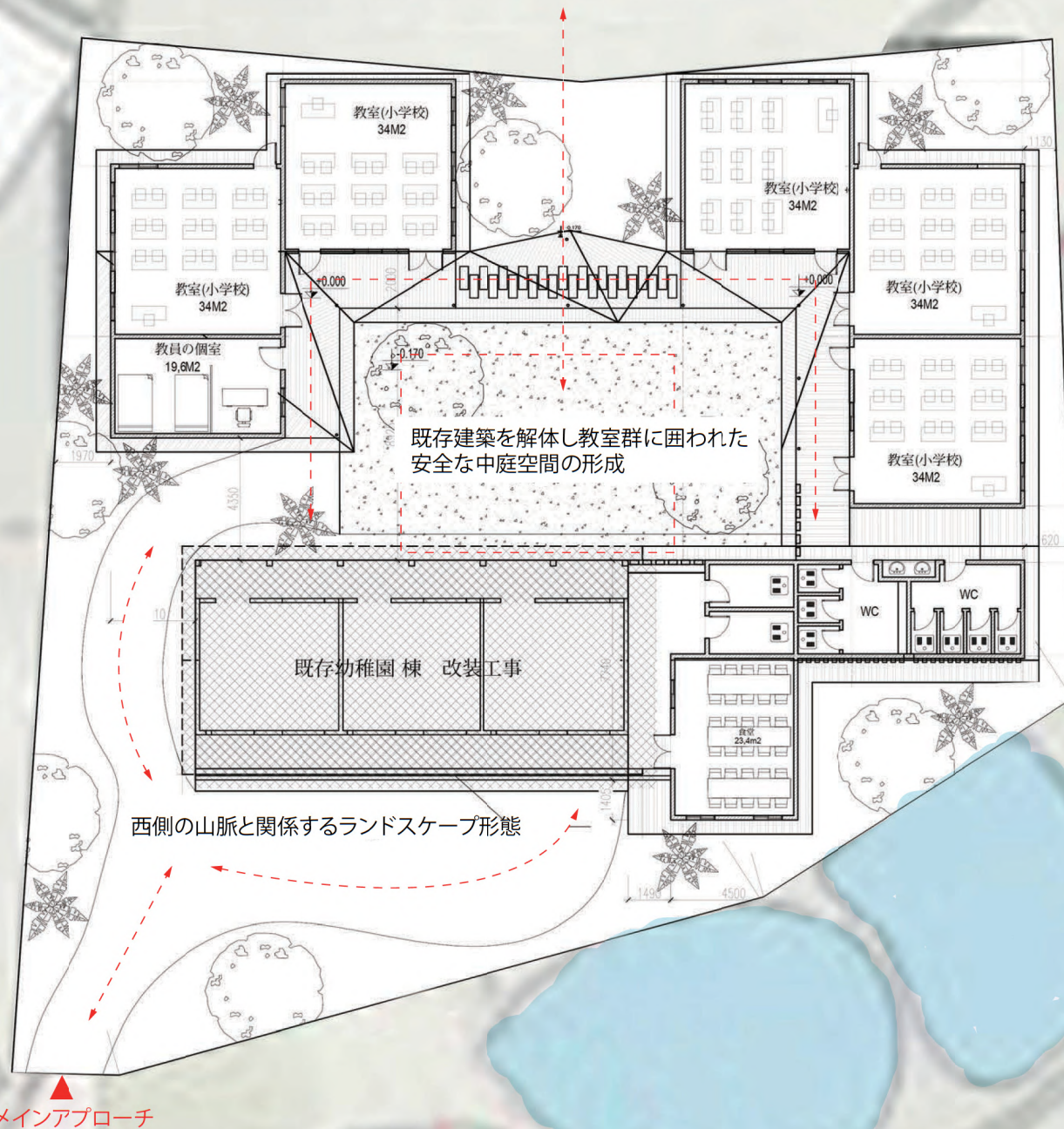
東南アジア特有の南風を考慮したボイドを設けた透かし積みと、西の強い日差しに影を設ける意図で凹凸を設けた積み方等、気候条件に対応するためのディテールを設計した。おおらかで美しく、時には厳しい自然環境の中で自然と人間、素材の関係性に寄与するだろう。

周辺環境の自然と調和した切妻屋根と外部の自然環境と学校との関係性を醸成する折版屋根

周囲の建物や自然環境に合わせて、全体は切妻屋根のボリューム群とし、中心の校庭に、小さいスケールで分節した多角形の折版屋根としている。この屋根下の空間は壁がない半屋外空間とし、校庭と外部環境との関係性を意図した。



折版屋根の半屋外空間によって生まれる学校と自然環境の関係性



ビジネス情報TOP > 建築・設計関連コラム > まちづくり > ベトナム、ハノイ——歴史とあふれだしがあるパブリック・スペース

海外のパブリック・スペースから 6

ベトナム、ハノイ——歴史とあふれだしがあるパブリック・スペース

宇佐美喜一郎（建築家、1+1>2 Architects）

歴史とともにあるパブリック・スペース

皆さんはベトナムという国にどのようなイメージを持たれているだろうか？

現在、ベトナムの主要都市は、急速な経済発展とともに都市や大規模建築の開発が進み、現代的な都市の様相を呈し始めている一方で、仏領インドシナ時代からある街並みや風景が残っているため、新旧が共存している。また、各々の都市には川や海、湖などの美しい天然資源がある。これまで私はベトナムの3つの都市（ホーチミン市、ダナン市、ハノイ市）で生活した経験があり、現在も首都ハノイ市に居住している。

ハノイ市では人々の生活が街に表出する「あふれだし」が最も顕著にみられる気がしており、それは、ハノイ市が辿ってきた歴史に起因すると思われる。よって、パブリックスペースについて考察をする前に、まずはベトナムの歴史について簡単に紐解いてみる。

革命家ホー・チ・ミンによる1945年の独立宣言（仏領インドシナからの独立）により、ベトナムは南北に分断され、北部にはハノイ市を首都としたベトナム民主共和国（ソ連と中国の支援）、南部にはベトナム共和国（米国の支援）が誕生した。その後、ベトナム戦争が起こり（1975年に終戦）、南北が統一される。ハノイ市は、独立以降ずっと社会主義国家の首都であるため、社会主義の様相をより感じることができる。また、ハノイ市は政治や外交の中枢であり、10以上の大小さまざまな湖が点在している面において、ほかの都市と異なる特徴を持っている。

ハノイ市に点在している湖の周囲には、独立や南北統一の願望の象徴として設立された公園があり、日本の昭和の雰囲気を出させるようなレトロな遊具や広場が充実している。一方で、そうした公園の周囲では、個人や個人の集まりが、異なるアクティビティをみせ、プライベートとパブリックの中間のようなスペースとあふれだしがある。

今回は、ハノイ市にある公園の周囲におけるパブリック・スペースをメインに、街なかのスペースでみられる人々のアクティビティやあふれだしを紹介する。また、ハノイ市を拠点とする設計事務所「1+1>2 Architects」による、あふれだしを意識して設計した教育施設を事例として紹介し、ベトナムのアーキテクトの実践も探っていこうと思う。



ハノイ市におけるユニークな「あふれだし」と「アクティビティ」がみられる場所を示した地図 筆者作成
〔クリックで拡大〕

公園の周辺における「あふれだし」

1960年に開園したトンニャット（統一）公園の近くには、ティエンクアン湖という小さな湖がある。そこでは、以下のような人々のあふれだしをみることができる。

湖を囲うようにボードゲームを楽しんでいる男性の集まり、理容師に散髪してもらっている男性、親子で過ごす人、静かに過ごしている人や、声をあげて楽しんでいる人もみられる。人々はそれぞれのアクティビティを楽しんでいるが、ひとつの湖の周りに集まっており、そうした人々の距離感から他者の存在を尊重しながら過ごしている印象である。



ティエンクアン湖周囲のあふれだし 以下特記なきものは筆者撮影

1975年に開園したトゥーレ公園の周辺では、建替工事の現場の内部と外部を使い倒した露天の喫茶店によるあふれだしをみることができる。仮囲いの内側に厨房を設置し、外側にプラスチックの椅子を置いて、露天の喫茶店を営んでいる風景がある。内側の厨房をみせようと、冷蔵庫のほか店主自身で設置したとみられるシンクや戸棚がみられ、工事の現場と連続する出入口もみられる。工事関係者がいたため、残念ながら撮影はNGであった。



露天の喫茶店の椅子が仮囲いの外側に並べられている

街なかにおける「あふれだし」

私の好きなベトナム料理のひとつに、魚の出汁に米麺、揚げた魚を添えたBUN CA（ブンカー）という料理があり、私がよく利用をするブンカーの店では、独特なスペースの活用がみられる。隣の店を隔てて路地があり、そこでは週末は洗濯物が干されているが、平日のランチタイムの混雑時には、既設のオーニングとテントを広げて、食事のスペースが拡張される。そのスペースは別の屋台の商いにも使用され、ストリートに対する共有性を感じることができる。



露天の散髪屋

喫茶店の店主に話を伺ったところ、彼女はこの建替工事の以前から、この場所で5年間喫茶店を営んでおり、工事のために立ち退きを求められたが、この場所が好きなので、工事中も使用させてもらうよう交渉した結果、使用の許可をもらえたようだ。これらのスペースでは緑が溢れていて日陰があり、湖のほとりは冷気によって涼しく、自然と人間の親和性を感じることができる。



週末の昼頃（上）と平日の昼頃（下）の路地の使われ方

ストリートの先にある交差点では、人々が盛んに通過・接触し、果物や野菜、肉や魚といった食べ物を扱う露天商があふれだしており、露天商は歩道に座り、建物側と車道側を使い倒している。車道では、自転車による花の商いもあり、朝と夕方とはとくにあふれだしが強い印象がある。



ストリートの露天商

こうした露天商は、ホーチミン市では観光スポットの周囲で多くみられたが、ハノイ市では観光スポットの有無にかかわらず、露天商が人々の生活圏にも多くみられ、どこか社会主義的な自由かつ平等な思想を感じる。しかし、実際のストリートでは、平然と歩道へのオートバイの乗入れがあり、危険な側面もある。

街なかにあるバストゥール公園は日本の地区公園のような場所で、自宅の近所ということでよく利用する公園である。この公園には、人工知能による水の汚染濃度の算定と濾過の機能を持つウォーターサーバーや、衛生機能が整備されたトイレなどがあり、それらは、企業の投資により設置されている。このような企業によるパブリック・スペースへの投資は近年さらに行なわれているようである。しかしこうしたパブリック・スペースの整備が充実する一方で、良い景観を持つ湖の周囲や既存のストリートなどの地価が急速に上がり、既存の周辺店舗が販売価格を上げるをえなくなる可能性があるため、人々の居心地やあふれだしが喪失しないかという不安がある。



企業の投資による公園の設備

アーキテクトの実践

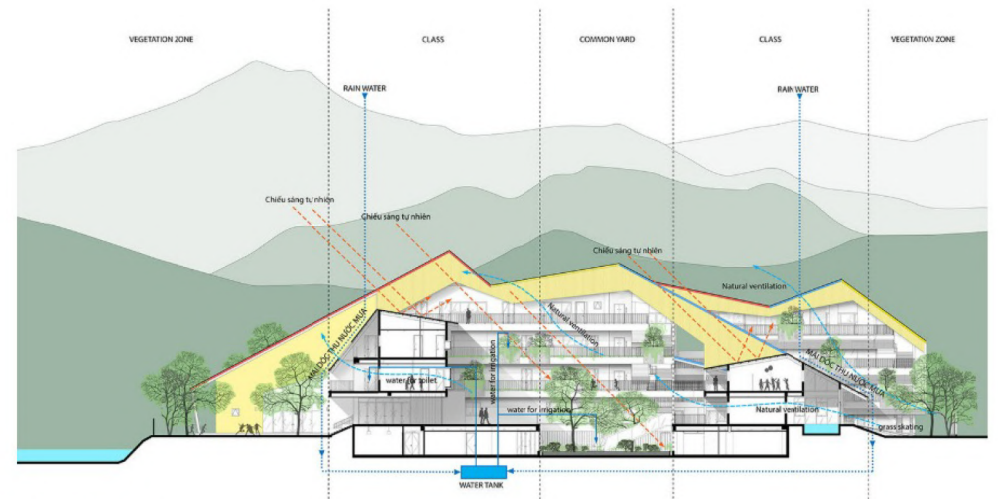
ハノイ市のパブリック・スペースには多くのあふれだしがあることを踏まえて、今後失われていく可能性のあるベトナムのあふれだしを再構築することを建築の理念として掲げて実践している1+1>2 Architects（設計者：ホアン・サック・ハオ氏【創設者、チーフアーキテクト】、グエン・ツアイ・タン氏、トアン・ナム氏）が設計した教育施設《Da Hop Education》を簡単に紹介する。

《Da Hop Education》は、ハノイ市から少し離れたホアビン省に位置し、敷地の周辺には、美しい山とロードサイドのような雰囲気がある。建物の外観や屋根の形状をはじめとする要素からは、建築とランドスケープを統合させるコンセプトを読み取ることができる。



《Da Hop Education》外観 提供=1+1>2 Architects

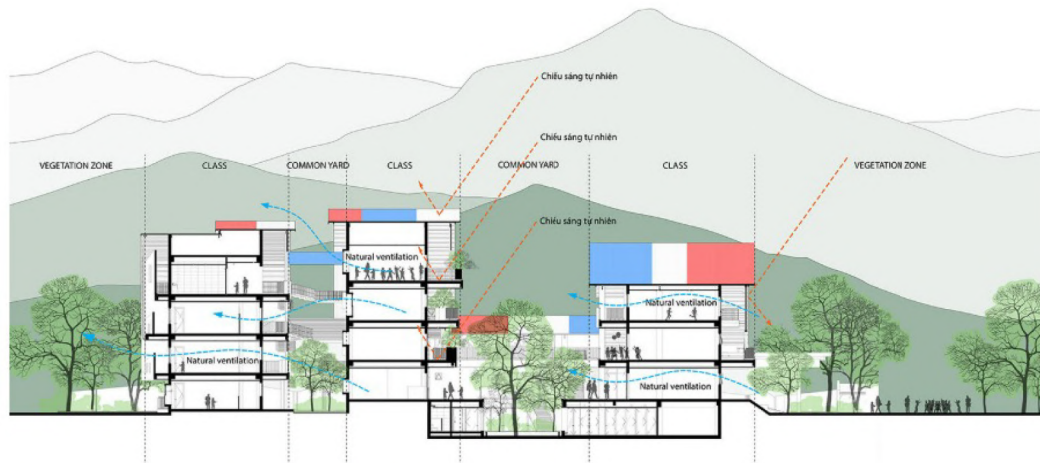
平面計画は、グリッドのプランを基本とし、街なかでみられた人々のあふれだしを前提とした、最小限の機能を持つ教室と水まわりを配置している。また、各教室が均一な学習環境を持つことや建物内に空気が循環すること、雨水を再利用することも意図されている。



《Da Hop Education》の平面図と断面図 提供=1+1>2 Architects

【クリックで拡大】

この建物は、子どもにとって安全であることを前提に、建物が周辺環境と接続する文脈を持っている。さらに各スペースには個性があり、視線が抜け、内部のスペースだけでなく外部のスペースにも活動があふれだしており、子どもの意欲を抑制するのではなく許容する創造的な教育施設である。



《太陽と風に対する意図を示す断面図 提供=1+1>2 Architects
[クリックで拡大]



《Da Hop Education》子どもたちのアクティビティ 提供=1+1>2 Architects

ベトナムは、日本と比較して子どものための教育施設やパブリック・スペースが充実しているとはいえない。公園では子どもをみかけることが少なく、危険を伴うストリートで子どもが走り回っている様子や、スマートフォンを片手に商業施設に集まる風景をたびたびみかける。実際私の友人は、母親の多くは子どもを外で遊ばせる場所が限られていることに悩みがあると教えてくれた。大小問わず子どものためのスペースが充実することは重要であり、アーキテクトによって教育施設が手がけられる意味は大きいだろう。



提供=1+1>2 Architects

1+1>2 Architectsは創業15年目の設計事務所であり、元々は日本の工務店に近い仕事の形態であった。創業初期は竹をはじめとする地場素材による構法のノウハウを蓄積し、その蓄積と実践を経て技術的な知識を持つ設計事務所として展開してきた。現在は基本設計から実施設計まで、ほとんどBIM（ビルディング インフォメーション モデリング）を使用し、先進的なデザインの生産を行なっている。デザインの生産方法に関しては、日本はベトナムより遅れている印象がある。また、先に紹介した大規模な教育施設だけでなく、インフラが整備されていない地域で、地場素材による低コストで小規模な学校や住宅のデザインも手がけている。

未来のパブリック・スペースに向けて

私はベトナムの3つの都市での生活を通して、歴史が独特なあふれだしやアクティビティを表出させていると考えている。また、ベトナムの人々の意識のなかに、場を共有することに対する強い情熱があることを感じる。

ベトナムには専門家が関与しないからこそ存在する、地場の人々が時間をかけてつくりあげたパブリック・スペースの理念があると思う。しかし、これらでみられるあふれだしやアクティビティが今後、失われていく可能性があることを深刻に考えたい。

ベトナムにおいてアーキテクトという職能が生まれたのは最近のことであり、近年では小規模建築だけでなく大規模建築や公的な都市計画にも関わるようになってきた。環境や歴史、慣習の文脈を読む能力を持つアーキテクトが今後のパブリック・スペースのデザインに関与することで、長い時間をかけて持続的に使用される場が築かれていくことを期待する。

宇佐美喜一郎（ウサミ・キイチロウ）

建築家、二級建築士、1987年生まれ。工務店勤務の後に大学で建築を学び始める、2014年東京理科大学工学部第二部建築学科卒業。2018年宇都宮大学大学院工学研究科修了。大学院在学中の2017年ダナン科学技術大学建築学科（ダナン市、ベトナム）に特別招待研究員として所属。ノイズアーキテツツ勤務を経て、2019年8月より1+1>2 Architects（ハノイ市、ベトナム）勤務。

建築の生産と意匠からみたベトナム現代建築における
地場素材の集合に関する研究

Study on Assemblage of Local materials in relationship to
Production and Design on Contemporary Architecture in Vietnam

The air of this study is to clarify the relationship to methods of production and expressions of design in Vietnamese contemporary Architecture that used local materials. I define the relationship as Assemblage of local materials. At first, I classify and define the local materials based on record of Interview with Architects in Vietnam. Secondly, I analyze area of production and channel of distribution, construction method on the local materials. as a result, I clarify the type of production on Architecture. Thirdly, I analyze used material and parts of Architecture. as a result, I clarify the type of design expression on Architecture. Fourthly, I clarify type of Assemblage on local materials based on the type of production and type of design expression. Finally I deduced 6 types on relationship between the production and the design as Assemblage on local materials such as bamboo and brick.

keyword : Vietnam, Local Materials, Production, Design

ベトナム, 地場素材, 生産, 意匠

1 章 序

1-1 研究の背景と目的

現在ベトナムでは、1986年のドイモイ（刷新）政策以後、急速な経済発展とともに、都市開発や大規模建築の建設により建築資材は高騰し、外国の建設企業も参入している。その一方で、住宅等の小規模な建築や若手設計事務所による建築作品では、地場素材を使用し風土や環境、経済に配慮した建築デザインが国際的に注目されている。そこでは、建築単体のデザインだけでなく、素材の流通から施工までの生産に関与することで、地場素材の集合としての建築デザインが実践されている。そこで本研究では、ベトナム現代建築における建築単体から素材の生産と流通までを含めた地場素材の集合としての建築デザインを明らかにすることを目的とする。

2 章 建築作品の概要と地場素材の種類

2-1 建築作品の概要と分析方法

本研究では建築雑誌「ARCH+」若手ベトナム建築家特集号に掲載された建築作品とベトナム建築家協会が主催する国内の主要な建築賞である National Architecture Award と Spec go green Award を受賞した建築作品で、分析に必要な設計図書が入手でき現地にインタビューの許可が得られた11の設計事務所、43作品を対象とし素材の生産や流通、施工管理、意匠について伺った（表1）。建築作品の所在地は国内最大の経済都市であるホーチミン市に多くみられる（図1）。建築作品の用途は住宅が多くを占め、次いでカフェやリゾート等の商業施設、地

域交流施設、教育施設がみられた（表2）。構造は大部分がRC造で、竹造や石造、煉瓦や土造に竹や木の屋根を併用する構造もみられた（表3）。分析方法はまず建築作品の設計施工方式と、地場素材の生産地域と流通経路を分析し建築作品の生産の傾向を抽出、次に素材の使用部位を分析し建築作品の意匠の類型を導き、この2軸から地場素材の集合の仕方を見出す（図2）。

2-2 地場素材の種類

建築作品に使用されている主要な地場素材には、多くみられた自然素材の中でも、竹が多くを占め、産業素材では焼成煉瓦が多くみられた。竹型枠の打放し仕上素材等の現場施工による素材もみられた（表4）。特質な種類では、タムボンという肉厚で曲げ強度に長ける竹、カクタンアンドと呼ばれるアジア広範囲に生息するキク科の植物がみられた。

3 章 地場素材を用いた建築の生産

3-1 設計施工方式

設計施工方式について4種類の方式に整理できた（表5）。工事を下請の職人が従事する設計施工一括単純方式①と、設計施工者が育成する組織内の職人が工事をする設計施工一括内製方式②、さらにそれらの併用による設計施工一括内製併用方式③や、設計施工分離方式④がみられた。

3-2 生産地域と流通経路

素材の生産地域は（表6）建築作品が所在する敷地周辺と市/省内で多くみられた。素材の流通経路は工場及び製作所を起点とするものが多くみられ、次いで設計施工者によるものが多くみられ建築物の使用者が流通に関わるケースもみられた（表7）。

表1 建築作品リスト

No	作品名	設計事務所名	掲載	竣工年
1	RESORT IN HOUSE	ALPES	NA	2016
2	A21 HOUSE		AR+	2012
3	SAIGON HOUSE		AR+	2015
4	T-HE CHAPEL		AR+	2014
5	T-HE NEST	A21 STUDIO	AR+ NA	2013
6	T-HE TENT		NA	2015
7	PAIGODA		AR+	2016
8	SESPA		NA	2015
9	BES PAVILION		AR+	2013
10	BLOOMING BAMBOO HOME	H&P	AR+	2011
11	SROP-IMMC-OFFICE		AR+ NA	2014
12	TOGETHER		AR+	2014
13	F-Office		AR+ NA	2014
14	House O	LVHQ	AR+	2014
15	Naman Spa	MIA DESIGN STUDIO	NA	2015
16	ANH HOUSE		AR+	2013
17	APARTMENT HOUSE IN BINH THANH	Sanuki Daisuke architects	AR+	2016
18	HEM HOUSE		AR+	2016
19	LT HOUSE		AR+	2016
20	TERMITARY HOUSE	TROPICAL SPACE	AR+	2014
21	TERRA COTTA STUDIO		AR+	2016
22	Nothingness house	V architecture	AR+	2012
23	GENTLE HOUSE		AR+	2012
24	BINH THANH HOUSE		AR+ NA	2013
25	Bn duong school		AR+	2011
26	Bnh House		SA	2016
27	DIAMOND ISLAND COMMUNITY CENTER		AR+	2015
28	FARMING KINDERGARTEN	VoTrongNghia Architects	AR+	2013
29	HOUSE FOR TREES	Headquarters	AR+	2014
30	S HOUSE 1		AR+	2013
31	S HOUSE 2		NA	2014
32	Wind and Water Bar		AR+	2011
33	STUCKING GREEN		AR+	2011
34	PPT UNIVERSITY ADMINISTRATION	VoTrongNghia Architects	AR+ SA	2014
35	Nanoco Panasonic Showroom		AR+ SA	2016
36	SON LA RESTAURANT	Ha Noi Office	AR+ SA	2014
37	Bottle Sail		AR+ SA	2014
38	Cam Thanh Community House		AR+ SA	2015
39	Jungle flower		AR+ SA	2016
40	Lang Dat/土の村	1+1+2	NA	2016
41	Residential for office worker in Locai		NA	2016
42	SJOI RE VILLAGE COMMUNITY HOUSE		AR+	2011
43	TA PHIN COMMUNITY HOUSE		AR+	2012

注）表中の記号は掲載された雑誌と賞の種類を示す。
AR+：ARCH+ NA：National Architecture Award SA：Spec go green Award



3-3 地場素材を用いた生産方式

設計施工方式と素材の生産地域、流通経路を合わせて建築作品を分析し地場素材を用いたベトナム現代建築の生産方式を導き出した（表8）。

まず設計施工一括単純方式では、設計施工者が職人や建物の使用者とともに、敷地周辺で産出された素材を調達し工事をする方式がみられる(①)、設計施工一括内製方式では、隣接省で産出した素材を設計施工者内の職人が素材を調達し、処理や加工後に流通させ設計施工者による技術指導のもと、設計施工者内の職人が工事をする(②)、設計施工一括内製併用方式では、素材の生産地域と流通経路が様々で、他の組織の職人と設計施工者内の職人が併せて工事をする(③)がみられた。さらに設計施工分離方式では、敷地周辺から区内で生産した素材を、施工者あるいは工場及び製作所が流通させ、施工者の管理のもと下請の職人が工事をする(④-1、④-2)と工事に従事する人は類似するが、敷地の区を超えた地域の工場及び製作所で生産された素材が流通する(④-2)、(④-2)と生産地域は類似するが、施工者が素材の流通に関与する(④-3)がみられた。大部分の生産方式で、設計施工者や施工者が素材の流通に関与するケースがみられ、設計施工一括内製方式や設計施工一括内製併用方式では流通範囲が広く、設計施工者が建築の生産全体に関わるものが確認できた。

4章 地場素材による建築の意匠

4-1 地場素材の使用部位

地場素材は建築作品の様々な部位で使用される。そこで建築作品における地場素材の使用部位を検討する。竹では、素材を使用する部位のうち天井が多くみられ、ついで木材、石や、植物では壁をつくるものが多くみられた。石では、内部と外部の両面をつくるものが大部分を占めた。植物を外部の壁全体に使用するものも多くみられた。焼成煉瓦や、プレキャストブロック、テラコッタ孔ブロックといった産業素材を外部の壁に使用し、現場での型枠、煉瓦の生産、セメントを用いた、現場施工の素材を外部の壁に使用するものも多くみられた。煉瓦を内部の壁で使用するものも多くみられた他、わずかであるが型枠素材を内部の壁で使用するものも多くみられた(表9)。素材の使用範囲は大部分で建築物の全体での使用がみられた。

表9 地場素材の使用部位

素材	自然素材						産業素材						現場施工の素材					
	竹			植物			煉瓦			セメント			型枠			煉瓦		
部位	内部	外部	内部	内部	外部	外部	内部	外部	内部	外部	内部	外部	内部	外部	内部	内部	外部	内部
床(F)(9)	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
壁(W)(67)	3	2	0	6	7	7	21	9	0	2	2	0	0	0	0	0	0	3
天井(C)(23)	17	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0
扉(R)(18)	0	5	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

4-2 地場素材による建築の意匠

前節での分析をもとに、素材ごとの使用部位と他素材との組み合わせ種類から6つの類型を見出した(表10)。

まず、竹を天井全体で組み立てる竹天井型と、植物であるヤシ等の茅葺屋根を組み合わせた竹天井・植物屋根型がみられた。竹天井型の多くは、複数種類の竹を組み合わせてつくられたものや、インテリアとしての使用が多い。竹天井・植物屋根型は、主要構造部が単一種類の竹であるものが多くみられ、屋根の茅は設計者の出身民族で種類等が異なる。植物で外壁全体を覆い緑化する植物外壁型ではカクタアンンドを使用するものが多くみられた。石を壁の全体に使用する石内外壁型では、花崗岩によるものが多くみられ、産業素材外壁型では、焼成煉瓦が大部分を占めた。現場施工素材外壁型では、現場打設のブロックを外壁全体に使用するものが多くみられ、わずかであるが、現場テ

ラソ洗い出しや竹型枠の打放し仕上素材もみられた。

主な特徴として、地場素材を、建築物の部位の全体で使用するものが多く、煉瓦を壁全体で使用した彫刻物のような作品も多くみられるが、煉瓦を透かして積層させたり、凹凸をつけて積層させることで内部空間に通気を与えたり日陰を生む、煉瓦による環境配慮を意図した意匠も確認できた。竹を使用したものでは、竹の種類に応じて屋根形状にも特徴がみられ、ドーム型の屋根では肉厚タムボンの使用がみられ、片流れや寄棟、切妻屋根ではルオン、インテリアの天井ではチュクサオと呼ばれるタムボンよりも肉薄でさらに細く軽い種類の竹が使用される。ボールの屋根形状ではルオンが使用されているが、竹を曲げるために炙って使用している。

5章 建築の生産と意匠からみた地場素材の集合

3章と4章で導き出した結果をもとに、生産方式と意匠の類型の二軸から、地場素材の集合の仕方として、6類型を見出した(表11)。設計施工一括方式では、設計施工者が敷地周辺で産出された素材を流通させ、地元の職人が組み立て、意匠の特徴として竹を天井全体に使用する類型I、設計施工者の組織内の職人が、敷地に隣接する市/省で素材を生産し設計施工者の管理のもと組織内の職人が組み立て、意匠の特徴として竹を天井全体に使用し、さらに植物を屋根全体に使用する類型II、様々な地域から設計施工者の組織内の職人と、工場及び製作所が素材を流通させ、組織内の職人との組織の職人が組み立て、意匠の特徴として、現場施工の素材を外壁全体に使用する類型III、設計施工分離方式では、工場及び製作所、施工者あるいは使用者が、敷地の近くから素材を流通させ、下請けの職人が組み立て、意匠の特徴として産業素材を外壁全体に使用する類型IV、意匠の特徴が類似し、様々な地域の工場及び製作所の素材を流通させ、下請けの職人が組み立てる類型V、類型Vと施工に関わる人は類似するが、素材の流通に施工者が関わり意匠の特徴として植物を外壁全体に使用する類型VIがみられた。

6章 結 本研究ではベトナム現代建築を、地場素材の集合として、生産や流通、建設過程から建築意匠を通して分析をした。その結果、地場の自然素材を設計施工者が地元の職人と共に流通や生産に関わり、工事を管理しながら組み立てていくもの、設計施工者が設計施工者が育成した地元の職人を統率しながら組み立てていくもの、設計者のデザインの意図をもとに産業素材を独自のデザインと施工方法で使用し、自然素材と共に併用して組み立てたものなどの、地場素材の集合の類型を明らかにした。建築デザインを、それらを構成する素材の収集源である建築家をはじめとした人と、素材の生産や組立の技術、産地や流通源といった場所性の交わりから生み出すことは21世紀の建築家の大きな役割であると考えられる。

注)「集合」とは、部材の組立、物や人の集合体を意味するフランス語を起源とした assemblage から導き出された言語であり、素材の集合と組立による建築の生産の概念を意図している。

参考文献

- 1) 能作文徳：「人・モノ・技術の連関からみた建築作品」-藤村記念堂におけるモノ・技術・人の連関-、日本建築学会大会学術講演梗概集（九州）、2016. 8
- 2) 鹿島出版：SD 1996年3月号 ベトナム建築大博覧、1996. 3 第378号
- 3) 権藤智之：「ベトナムにおける建築生産システムに関する研究」-ハノイ市のチューブハウス躯体チームの実態調査-、日本建築学会大会学術講演梗概集（関東）、2015. 9

表10 地場素材による建築の意匠類型

No.	主要構造	自然素材						産業素材						現場施工の素材						意匠形状
		竹		植物		煉瓦		セメント		型枠		煉瓦		型枠		煉瓦				
		部位	種類	部位	種類	部位	種類	部位	種類	種類	種類	種類	種類	種類	種類	種類	種類			
12	煉瓦造	BPC全	チル														片流れ			
10	竹造	FPBC全	チル														寄棟			
37	竹造	FBC全	チル														ボールド			
8	土造	PBC全	チル														片流れ			
40	土造	C全	チ																	
39	S造	C全	チ																	
30	RC造	C全	タ																	
23	RC造	C全	チ																	
16	RC造	C全	チ																	
27	竹造	BPCR全	タ	R全	ヴ												ドーム			
32	竹造	BPCR全	タ	R全	ヴ												ドーム			
36	竹造	BPCR全	ル	R全	ヴ	W内外全											陸屋根			
42	土造	BPCR全	ル	R全	ラ	W内外一											片流れ			
48	煉瓦造	BPCR全	ル	R全	ラ												波葺			
33	RC造			W外全	V	W外全	花													
31	S造			W外全	V	W外全	花													
1	RC造			W外全	V	W外全	花													
15	RC造	C一	タ	W外全	力															
5	S造			W外全	力															
14	RC造			W外全	力															
41	RC造			W外全	力															
6	石造				コ	W内外全	花													
8	石造				コ	W内外全	花													
26	RC造				コ	W内外全	花													
22	RC造	C一	チ	R全	コ															
21	RC造	C一	チ	R全	コ															
20	RC造																			
19	RC造																			
13	RC造																			
35	S造																			
17	RC造																			
24	RC造																			
25	RC造																			
28	RC造																			
34	RC造																			
11	RC造																			
18	RC造																			
29	RC造																			
43	煉瓦造																			
2	RC造																			
3	RC造																			
4	S造																			
7	S造																			

注) 表中の表記は、表4.9に準ずる。表中の部位における「外」は外部、「内」は内部を、「全」「一」は部位の全体、一部を示す。また、素材の積み方における「平」は平積み、「凹」は凹凸表現、「透」は透かす積み方を示す。

竹天井型 (9)

- ・複数種類の竹によるもの
- ・インテリアでの使用もある
- ・竹の天井

No.9

竹天井・植物屋根型 (5)

- ・竹の天井と植物の茅葺屋根
- ・主要構造部で
- ・単一種類の竹を使用

No.27

植物外壁型 (7)

- ・植物による
- ・外壁全体の緑化

No.15

石内外壁型 (3)

- ・石でできた内外壁

No.6

産業素材外壁型 (9)

- ・煉瓦等の産業素材が
- ・外壁全体で使用される
- ・内部も併せて
- ・使用されることもある

No.20

現場施工素材外壁型 (6)

- ・竹型枠の打直し
- ・仕上素材や現場打設の
- ・ブロック等の
- ・素材が外壁全体で
- ・使用される

No.11

類型外 (4)

注) 表中の表記は、表4.9に準ずる。表中の部位における「外」は外部、「内」は内部を、「全」「一」は部位の全体、一部を示す。また、素材の横積みにおける「平」は平積み、「凹」は凹凸表現、「透」は透し積みを示す。

表11 建築の生産と意匠からみた地場素材の集合の類型

4章		自然素材												産業素材				現場施工の素材						
3章	竹天井型 (3)			竹天井・植物屋根型 (5)			植物外壁型 (7)			石内外壁型 (3)			産業素材外壁型 (9)			現場施工素材外壁型 (6)								
	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)	(13)	(14)	(15)	(16)	(17)	(18)						
設計施工一括	①	I			No9敷地生産地域 土壁仕上の日干煉瓦(施 一部 薪炭窑の壁竹の天井竹と石の流通 工事職人管理設計施工者																			
	②				II																No27敷地生産地域 植物の茅葺屋根竹の天井 竹と植物の流通 工事職人管理設計施工者			
	③																							
設計施工分離	④-1				No21敷地生産地域 産業素材の外壁敷地 使用数によるセルフで組むの自然素材建具 工事職人管理設計施工者																IV			
	④-2				No20敷地生産地域 産業素材の外壁敷地 工事職人管理設計施工者																V			
	④-3				VI																No15敷地生産地域 竹の天井一部植物の外壁 竹の束竹の束 産業素材の流通 工事職人設計施工者 現場の流通施工者			

宇佐美喜一郎／OFA (Office For Architects)